



1 大阪のグランドデザイン

<笹川議員>

統合本部長でもある知事として、「グランドデザイン・大阪」に対する想いは。

<松井知事>

圧倒的な都市魅力に磨きをかけ、世界から人や企業を集めるためには、大阪を大きく捉え、そのポテンシャルを活かしていくことが重要と考える。

<笹川議員>

柴島浄水場周辺は都心部最後の巨大低未利用地。小河副知事は、どのような感想をお持ちか。

<小河副知事>

ポテンシャルの高い、魅力的な土地というのが第一印象。面積もうめきたの約2倍ある。活用できることとなれば活性化したいし、できる土地であると感じている。

<笹川議員>

大阪のグランドデザインの最終まとめにあたっては、府民から「大阪が変わりはじめた」と言われるような、大胆な提案を求めるべき。

<松井知事>

広く提案を求めていくことは重要。大きな意見をうけて、6月に「グランドデザイン・大阪」最終とりまとめを行う。

<笹川議員>

たとえば新大阪・柴島エリアを、スマートコミュニティのモデル地区としてはどうか。「グランドデザイン・大阪」が、壮大で大胆なものとなるよう要望する。

2 都市魅力創造のあり方

<笹川議員>

内外から、ヒト、モノ、カネを呼び込むには、これにあわせて、他を圧倒するような大阪の都市魅力を創造・発信することが重要では。

<松井知事>

グランドデザイン・大阪の取り組みに合わせ、統合型リゾートや万博公園南側ゾーン、百舌鳥古市古墳群の世界遺産登録など、府域全体が他を圧倒するような都市魅力の創造・発信に取り組んでいく。

<笹川議員>

「大阪府市都市魅力戦略会議」は大阪市内に重点を置いた取り組み。府の役割は、府域全体の都市魅力の向上では。

<松井知事>

戦略会議における「都市魅力創造重点化エリア」の魅力づくりを進めることは、大阪ミュージアム構想のブランド化にも大きく寄与するもの。府市事業の融合・統合による集客効果や経済効果を府域全体に波及させていくという観点から、大阪市との協議を進めていく。

<笹川議員>

府市事業の融合・統合によって、今後、大阪の都市魅力はどのように変わるのか。

<松井知事>

より効果的・効率的な事業に再構築することを目指しており、グレードアップした大阪の魅力を内外に強力に発信できるものと確信している。



3 大阪の高等学校における教育力の向上

<笹川議員>

平成 24 年度の公私募集人員が府内進学予定者数に満たないという報道があり、中学生はじめ保護者に無用の混乱をもたらしたと考えるが、その事実に対しどのように認識し、原因は何と考えるか。

<教育長>

平成 23 年度選抜の志願状況を受けて、私学側との協議が遅れたことは事実。調整段階の数字が報じられたことにより不安を与えたことは、まことに申し訳ない。

<笹川議員>

募集人員を超えて生徒を受け入れている私立高校に対し、府としてどのように対応してきたのか。

<府民文化部長>

学校選択の際の判断材料の一つであり、募集人員と入学者数が大きく異なることは好ましくない。募集人員の設定にあたっては、受け入れ実態に見合ったものとするよう、指導してきた。

<笹川議員>

募集人員を上回る生徒を受け入れている私立高校に対して、より厳しい対応を取ることはできないのか。

<府民文化部長>

生徒の適切な学校選択に資するよう、府のホームページにおいて、平成24年度入試の結果が確定した段階で、各私立高校の募集人員と入学者の状況を公表したい。

<笹川議員>

平成24年度の募集人員について、昨年度定員割れをした学校の定員を減らしているように見える。定員割れを回避するため、定員を減らしたのか。

また、普通科で5学級の募集人員を設定した学校があるが、まさしく定員割れを回避するためではないのか。

<教育長>

今回の募集学級数については、募集人員を柔軟に設定することと、高校進学を希望する生徒に対して必要な募集人員を確保し、就学を保障するという公立高校の使命、役割を果たすこととのバランスをいかにとるか、非常に難しい判断が求められるなかで、設定したもの。

<笹川議員>

大阪全体の高校教育の質の向上について、知事はどう考えるか。

<松井知事>

教育に求められる役割を踏まえ、質の向上が大切。私としては、子供たちのために教育環境を守りたい。公立高校には頑張ってもらっていて、生徒に選ばれる公立高校を作りあげてもらいたいと願っている。教育振興計画において、そのように現場が変わっていくための方向性を示していきたい。